日本建築学会中国支部研究報告集 第37巻
平成26年3月

夏休み地域塾(2011･2013年夏:10～15･23～25人)におけるプレイルームの使われ方
－ 規模計画の観点から見た2室3領域型学童保育施設の使われ方 その4 －

正会員 ○後谷一機**
準会員 大和聡羅*
正会員 草野啓太**
正会員 中園眞人***
正会員 山本幸子****

学童保育施設　納屋　改修
地域塾　使われ方　空間機能評価

雨天日放課後(2013 春:13～15 人)の屋内・屋外の児童分布と遊びの形態 - 規模計画の観点から見た２室３領域型学童保育施設の使われ方 その 3- に続き、2013 年夏の長期休暇中の報告を行う。

1. 長期休暇中の生活プログラム

1) 2013 夏休みにおける終日保育

本稿では2011・13年度の夏休みの特別プログラム地域塾について、規模計画の観点から比較考察を行う。2011年度の夏休み期間中における地域塾の詳細については既報[5)]にて報告した。2013年については8月19日～30日の10日間使われ方調査を実施した。地域塾とは、夏休み期間中に施設に通う児童と地域住民の交流を図る活動として、地域ボランティアが講師を務める特別プログラムで、体験学習や遊びが行われる。前述通り2011年において開催された地域塾を、活動テーマに応じて系毎に分類し紹介した。これに則り、2013年の調査期間中に開催された地域塾を系により分類し、母集団の変化した場合における２室３領域の使われ方の変化について、平日放課後同様に比較検討を行い、規模計画の観点から学童保育施設の空間構成について考察する。

2) 終日保育プログラムの基本構成

活動を比較するにあたり、2011・13 年について活動の酷似している５日間を任意に抽出した概要を図 1 に記す。2011・13 年度の調査期間中の終日保育における生活プログラムは自由遊び・勉強・自由遊び・おやつ・自由遊び・塾・自由遊び・昼食・自由遊び・おやつ・掃除・自由遊び、と展開する。職員は常時 2・4 名が在室する。2013 年度の調査期間中は 21～26 名の児童が来所しており、これは 2011 年の倍の人数にのぼる。

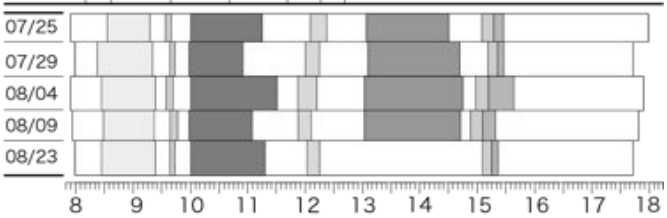
2. 地域塾

1) 系による塾分類

系により塾の分類と概要を表 1 に示す。塾の内容により、講師の準備した課題作品を作る「工作系」、講師の演奏・指導により歌や踊り・楽器演奏を行う「音楽系」、身体運動を行う「運動系」に分類される。2013 年度の内容として調査期間中に行われ、2011 年の活動と比較出来る「押し花作り」「絵手紙作り」「ビー玉迷路工作」の工作系 3 項目、「空手」の運動系１項目「クイズとお話と歌」の音楽系１項目を取り上げる。2011 年度の項目には 2013 年度と比較するため「国体用しおり作り」「絵手紙作り」「万華鏡作り」の工作系 3 項目、運動系「空手」、音楽系「歌とダンス」の 1 項目ずつを取り上げる。

講師には例年元学校教員・地域で教室を主宰する講師・NPO・ボランティア活動を行なう講師等が参加し、

2011年度 日付(曜日	天候	来所人数 3-M/F	2-M/F	1-M/F	合計	職員	地域塾
07/25 (月	晴	3/0	1/0	7/1	12	2	万華鏡作り(09:55 - 11:15)
07/29 (金	晴	3/0	1/0	8/1	13	2	国体用しおり作り(10:00 - 11:00)
08/04 (木	晴	2/0	1/0	8/1	12	2	歌とダンス(10:00 - 11:30)
08/09 (火	晴	2/0	1/0	8/1	12	2	空手(09:55 - 11:03)
08/23 (火	晴	3/0	1/0	8/1	13	2	絵手紙作り(10:00 - 11:20)



2013年度 日付(曜日	天候	来所人数 4-M/F	3-M/F	2-M/F	1-M/F	合計	職員	地域塾
08/19 (月	晴	1/0	3/2	1/2	9/5	23	4	押し花(09:50 - 11:18)
08/20 (火	晴	1/1	3/2	1/2	9/5	24	4	空手(10:00 - 11:00)
08/22 (木	晴	1/0	3/3	0/2	8/6	23	4	クイズとお話と歌(10:38 - 12:00)
08/26 (月	晴	1/1	4/2	1/2	9/5	25	4	ビー玉迷路工作(10:15 - 12:05)
08/28 (水	晴	1/1	3/3	1/2	9/3	22	4	絵手紙作り(10:00 - 11:30)

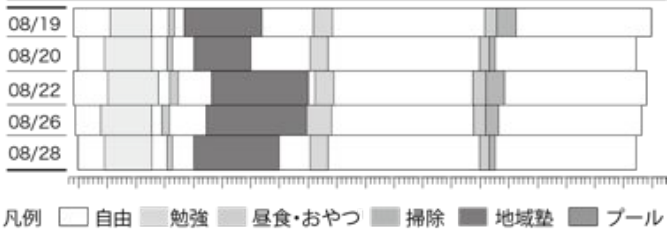


図1 年度別抽出日の概要

表 1 年度別地域塾属性表

	系	工作系			運動系	音楽系
2011年	タイトル	「国体用しおり作り」	「絵手紙作り」	「万華鏡作り」	「空手」	「歌とダンス」
	日時 参加児童数 講師	07.29 / 10:00 ~ 11:00 参加児童数:13名 講師:地域で押し花教室開講	08.23 / 10:00 ~ 11:20 参加児童数:13名 講師:食物推進委員会所属	07.25 / 09:55 ~ 11:15 参加児童数:12名 講師:元小学校教諭	08.09 / 09:55 ~ 11:03 参加児童数:10名 講師:地域で空手教室開講	08.04 / 10:00 ~ 11:30 参加児童数:12名 講師:NPO活動家
2013年	タイトル	「押し花作り」	「絵手紙作り」	「ビー玉迷路工作」	「空手」	「クイズとお話と歌」
	日時 参加児童数 講師	08.19 / 09:50 ~ 11:20 参加児童数:23名 講師:地域で押し花教室開講	08.28 / 10:00 ~ 11:30 参加児童数:22名 講師:食物推進委員会所属	08.26 / 10:15 ~ 12:05 参加児童数:25名 講師:山口大学	08.20 / 10:00 ~ 11:00 参加児童数:24名 講師:地域で空手教室開講	08.22 / 10:40 ~ 12:00 参加児童数:23名 講師:NPO活動家

Way to use of playroom by Local network cultural exchange. " The 2011,13 Smmer, children of 10~15, 23~25 people "
Space utilization of after-school daycare center , the viewpoint from the population's scale planning. Part-4

USHIRODANI Ichiki, YAMATO Sors, KUSANO Keita, MORIKAWA Mako, YAMAMOTO Sachiko, NAKAZONO Mahito

図 2　年度別塾活動内容の比較 －　工作系 4 項目

様々なメンバーで塾が運営されている。2011・2013年度の講師を比較しても同系統の内容を実施しているものの、継続してボランティア講師として協力を得ている事が分かる。地域の様々な活動団体・組織との日常的交流が頻繁で、改修時に地域ボランティアの協力を得たこと等により、 本事例は、社協を始めとする地域に密着した民間組織による学童保育施設運営が行われている事例と位置付けられる。

2) 年度別塾活動内容の比較

2-1)「国体用しおり作り」と「押し花作り」

図 2 に活動シーンを示す。2011 年の国体用しおり作りの日は 13 名の児童が参加し活動はプレイルームで行われる。 2 脚につき 4,5 名に分かれて着座している。ゆとりを持ち、講師・職員が児童の机を巡視するための動線を確保した机間配置となっている。 プレイルームの領域使用の状況からプログラム進行のために周到な準備がなされていると分かる。典型的なシーンを見ていくが、シーン a では材料を配る際に講師・職員が机間を周るが上記の通り充分に材料を配ってまわれている。シーン b では作業が開始されてゆくが、4,5 人での 2 脚の利用も無理なく行われていた。シーン c では児童の席移動が行われているが、机間の混雑は発生していない、塾の全行程を通して無理なくプログラムは進行している。

2013 年の押し花作りが行われた日は、23 名の児童が来所しており、2011 年と比較し約 2 倍の児童数となっている。4 グループ配置され、 1 グループ 5,6 名で構成されている。シーン a にあるよう講師は畳みコーナー付近で作業の説明を行い、職員と共に材料を配布して回る。シーン」b では材料を取るため・他の児童の作業を見るために児童が室内を歩き回る。机間は 2011 年同様に余裕を持たせてあるため、児童数が増えて人口密度は増加しているものの作業自体に支障はない。シーン c では作業が終わった児童が現れているが畳コーナーやソファーが逃げの場となっており作業の進行に影響は見られない。シーン d

図 3　年度別塾活動内容の比較 －　工作系 2 項目・運動系 2 項目

では 1 人ずづ作品の発表を行っている、4 グループの構成となっており 2011 年の様なゆとりは持てないが人が立つスペースは充分に確保出来ているためプレイルーム南側に職員と児童が立ち発表を行っている。

2-2)「絵手紙作り」

図 2 に活動シーンを示す。2011 年度には 13 名の児童が参加している。 1 グループ 4,5 名で構成され 2 脚につきグループが着座する。シーン a,b に見られる様に、「しおり作り」時同様机間は職員・講師が巡視出来る充分な幅を持たせてある。又、シーン c では手洗い場を使用しているがプレイルームと多目的室を移動する際にも混雑等おこらず、円滑にプログラムが進行している。

2013 年度は 22 名の児童が参加する。2011 年度同様 1 グループ 4,5 名が机 2 脚を使用しており、5 グループ程で構成されている。室全体に机が配置されているがシーン b に見られる様に、講師が前に立ち作業の説明を行う程度にはスペースが設けられている。シーン c では「しおり作り」児童用に作業を終えた児童が歩き回る等が起こるが、ソファーやプレイルームの隅が逃げの場として機能しており、作業を続ける児童への目立った影響は見られない。また同様にシーン d では発表の機会があるが充分なスペースが確保されておりに円滑に進行している。

2-3)「歌とダンス」「クイズとお話と歌」

図 3 に活動シーンを示す。2011 年度には 12 名の児童が参加している。プレイルームに 2 列ずつ計 6 脚の机が配置され 1 脚には 2 名の児童が着座している（シーン a)。活動内容によってその場に立って踊ると行った事も行われるがシーン b にある様に机間はそれに対応する様にゆとりをもって配置される。また講師は室前方・通路を楽器をもって動き回るが、ボード付近にも充分なゆとりを持つことが出来ている。

2013 年度には 23 名の児童が参加している。5 脚と 4 脚の 2 列が室ぎりぎりまで配置されており、これが平行は位置の限界であると思われる（シーン a)。 1 脚には 2,3 名が着座しており、室前方には前年同様に職員や講師が立てるスペースがぎりぎり確保されている（シーン b)。ま

図 4　年度別塾活動内容の比較 －　工作系 2 項目

た講師はボードを使用し振り付けのおさらいを行っており（シーン c)、シーン d では児童も一緒にその場に立ってダンスを踊るが、互いに振り付けを行っても手があたる等の影響は見られず、進行は円滑に進んでいた。

2-4)「空手」

2011 年と 2013 年度はどちらも家具配置を行わず広く室を運動のためのスペースとして使用している。2011 年はプレイルームで行えているが 2013 年においては多目的室を順番待ちのための逃げの場として使用している。１室で完結しようとすれば面積的にも影響は無いが２室が建具等の無い連続した領域である事がプログラムの進行を円滑に進めている事が明らかであると考えられる。

2-5)「万華鏡作り」「ビー玉迷路工作」

図 4 に活動シーンを記す。2011 年に行われている万華鏡作りは典型的な工作系の地域塾といえる。室に机配置が行われ、材料の配布・作業の説明と巡視・完成した物を見て遊ぶといった一連の活動が円滑に行われている。

2013 年のビー玉迷路工作は倍の児童数を、１脚に付き 2 名の児童で進行させている。プレイルーム内に入りきらない児童は多目的室に並べられた机を使用し作業を行う。多目的室も使用されるため、机間・プレイルーム前方にはゆとりがあり、シーン a,b に見られる様に職員や講師もスムーズに机間を移動出来ている。職員は４名在室しており、かつ「空手」時にも挙った様に 2 室は連続した室構成となっているため、2 室で作業の雰囲気や指導が分断される事は無い。またシーン c の様に歩き回る児童が現れた場合にも、もともとゆとりはあり、かつ逃げの場はきちんと確保されているため円滑にプログラムが進行している。

3. まとめ

以上の様に、人数規模が 2 倍程度拡大した場合の地域塾の活動内容を系毎に確認してきたが、いずれの場合にもプログラムの進行に無理は無く円滑に活動が展開していたと言える。大きくは、逃げの場の確保がなされていた事と、連続した 2 室により活動の場が構成されていたためプログラムによって使い方を変更出来た点にあると考えられる。今後、規模計画の観点による、詳細な比較検討を行っていきたい。

謝辞

本研究を遂行するに当たり、下関市社会福祉協議会菊川支所、「つばめの家」施設長・職員及び児童保護者の方々の御理解と調査への全面的な協力を頂いた。末尾ながら記して謝意を表します。

参考文献

1) 松本歩子・山根さおり・関川千尋:近年の学童保育所のあり方に関する研究,日本建築学会計画系論文集,No.630, pp.1683-1690,2008.8
2) 三宅勝司・高橋博久:民家型学童保育施設の空間構成に関する調査研究,日本建築士学会大会学術講演梗概集,E-1 分冊,pp,59－60,1997,9
3) 江川紀美子・定行まり子:東京都都心部の子育て関連施設の整備と計画に関する研究,日本建築学会大会学術講演梗概集,E-1 分冊,pp.17-18, 2009.8
4)山崎 陽菜・定行まり子:夏休みにおける学童保育所の生活実態と人数規模による行為の分類,日本建築学会学術講演梗概集,E-1 分冊,pp.161- 162,2011.7
5)後谷一機・中園眞人他 2 名:地域人材を活用した夏休み地域塾の取り組み,日本建築学会中国支部研究報告集,第 34 巻,pp.565-568,2012.3
6)山崎陽菜・定行まり子:こどもの行為からみた学童保育所の空間のつかわれ方,日本建築学会技術報告集,第 39 号,pp,657－662,2012,6
7) 中園眞人・山本幸子:農家住宅を再利用した地域共生ホーム「中村さん家」の使われ方,日本建築学会計画系論文集,第 75 巻 第 651 号,pp.1199－1207,2010.05
8) 中園眞人・山本幸子他2名:農家住宅納屋の学童保育施設への再生プロセス,日本建築学会計画系論文集,No.658,pp,2925-2932,2010,12

* 山口大学工学部感性デザイン工学科 学部生
** 山口大学大学院理工学研究科 修士課程
*** 山口大学大学院理工学研究科 教授・工博
****筑波大学システム情報系 助教・博士（工学）

* Undergraduate, Dep. of KANSEI Design Eng., Faculty of Eng., Yamaguchi Univ.
** Graduate Student, Graduate School of Science and Eng., Yamaguchi Univ.
*** Prof., Graduate School of Science and Eng., Yamaguchi Univ., Dr. Eng
**** Assistants Prof., Faculty of Eng., Information and Systems., University of Tsukuba., Dr.Eng.